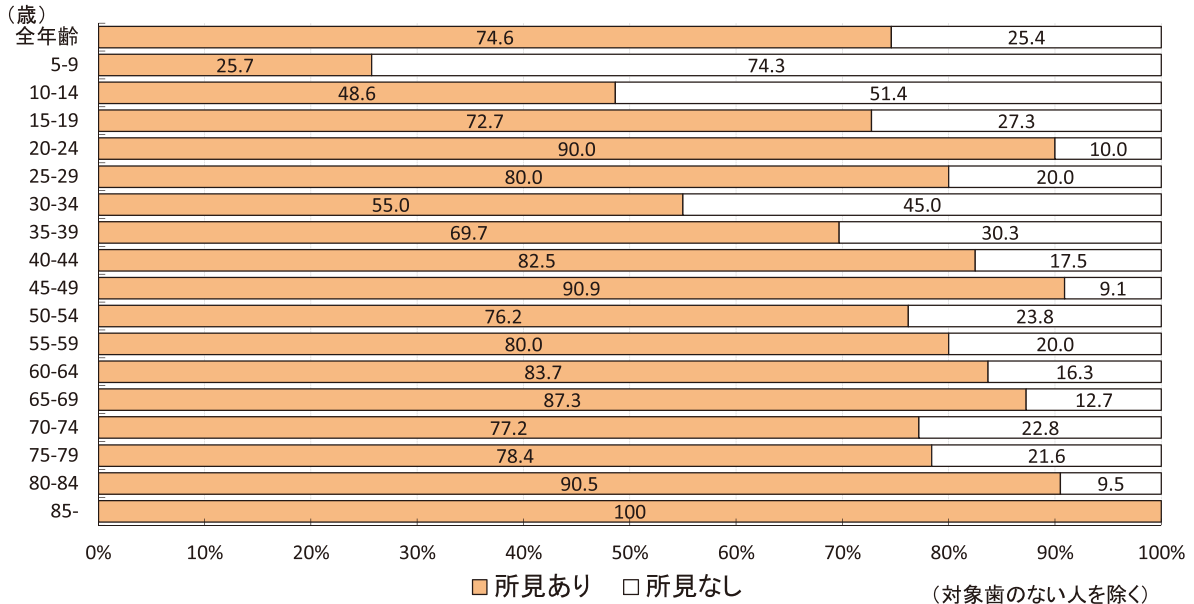


(2) 歯肉の状況

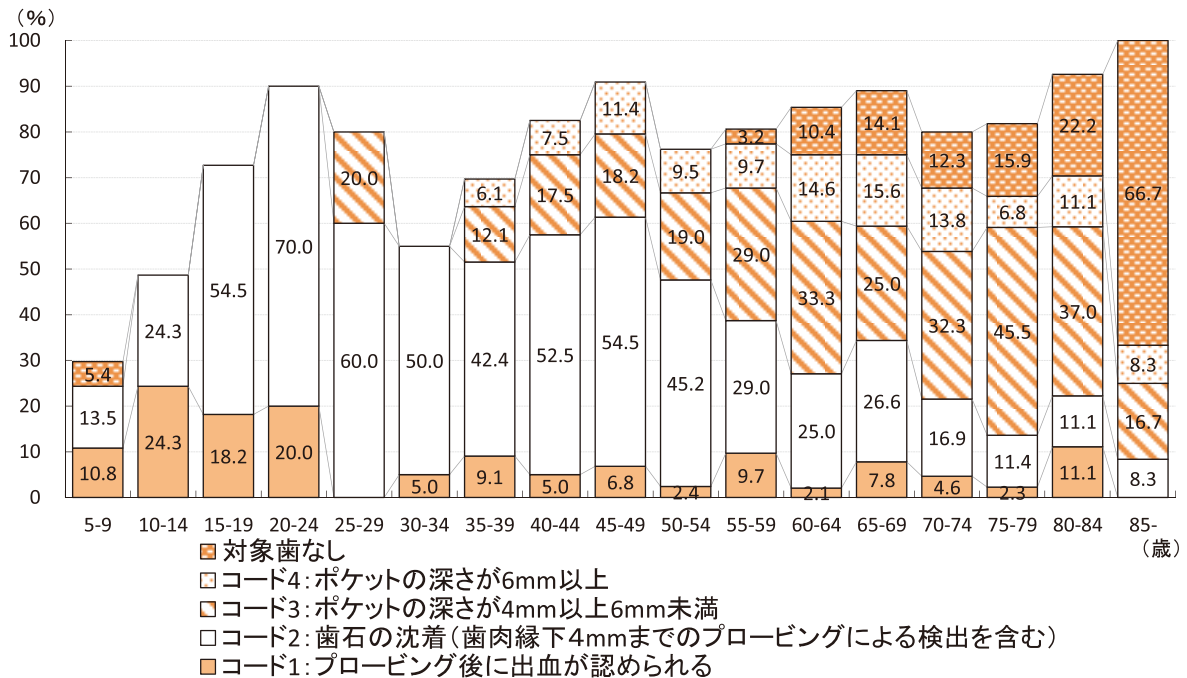
◆ 歯肉の状況

歯肉に所見がある者の割合は全体で74.6%であり、20歳代では80%を超えていた。
歯肉の状況では、歯周ポケットが深い者(コード4)は35歳以上にみられた。

【図73】 歯肉所見の有無



【図74】 歯肉の状況(全体)



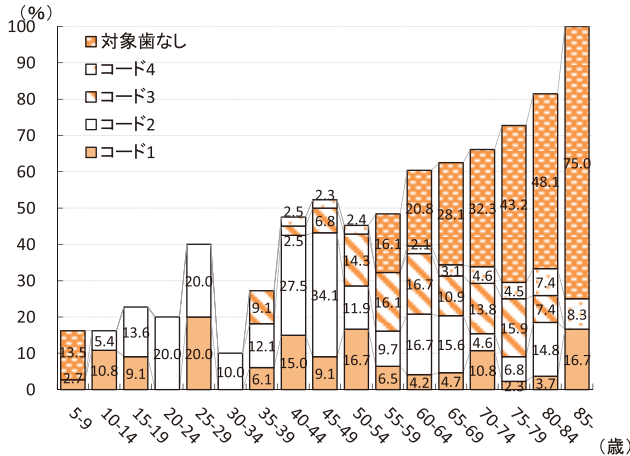
注) プロービングとは、歯周ポケットの深さを調べる検査



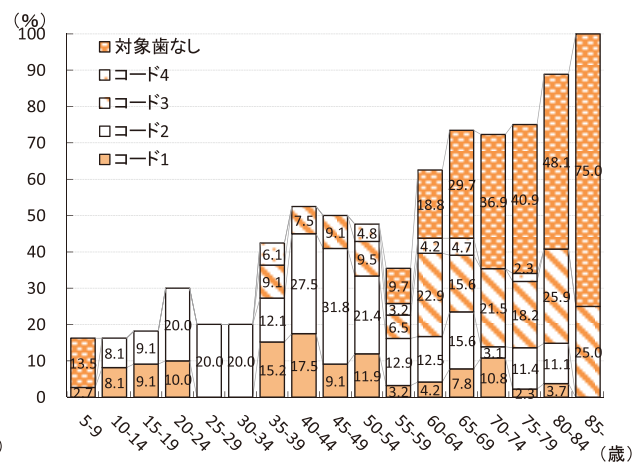
(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合
目標値(平成35年度) : 25%

歯肉を6ブロックに分けて見ると、歯肉に所見がある者(コード1~4)の割合は、臼歯部では上顎左側臼歯部を除き45~49歳で最も高かった。
前歯部では、上顎は50歳代までは所見のある者が40%までにとどまり、下顎は54歳までは歯周ポケットが深い者(コード4)はいなかったが、全ての年代に歯石の沈着がみられた。

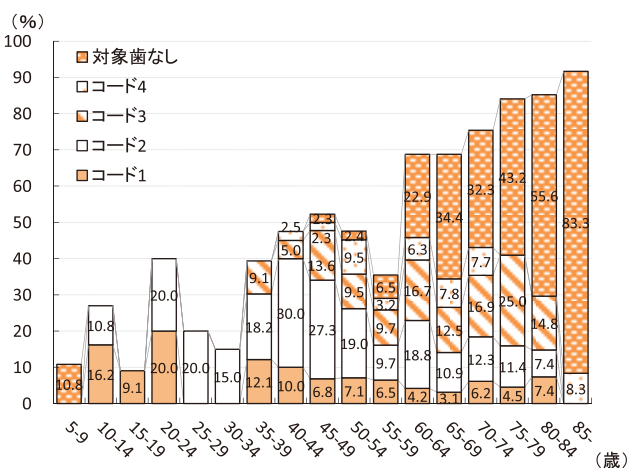
【図75】 歯肉の状況(上顎右側臼歯部)



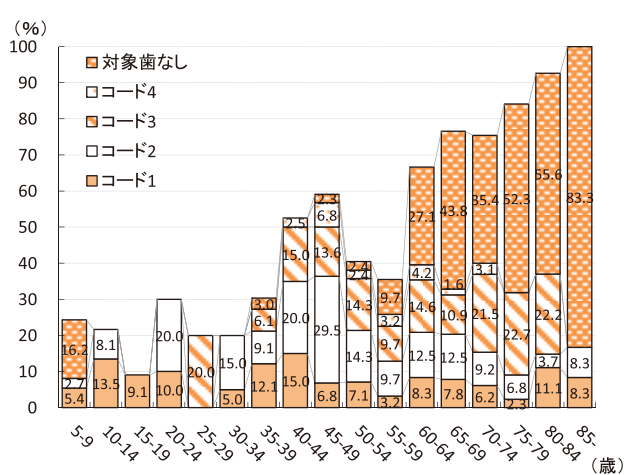
【図76】 歯肉の状況(上顎左側臼歯部)



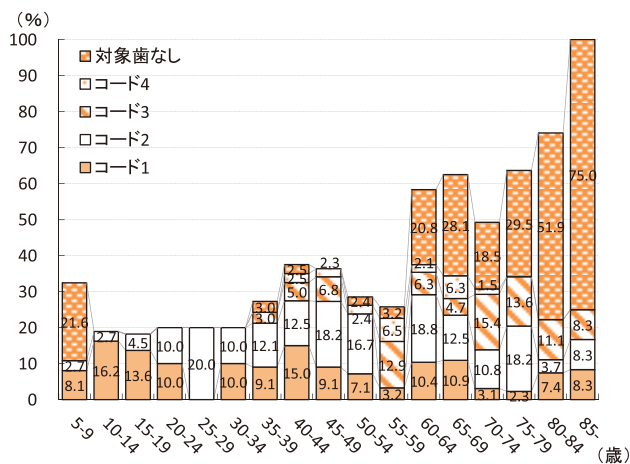
【図77】 歯肉の状況(下顎右側臼歯部)



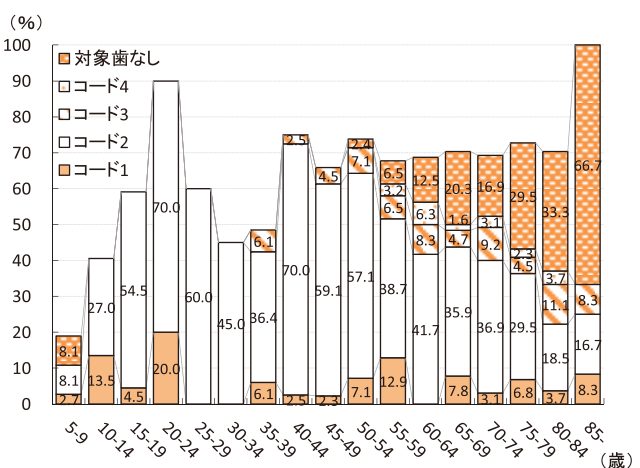
【図78】 歯肉の状況(下顎左側臼歯部)



【図79】 歯肉の状況(上顎前歯部)



【図80】 歯肉の状況(下顎前歯部)



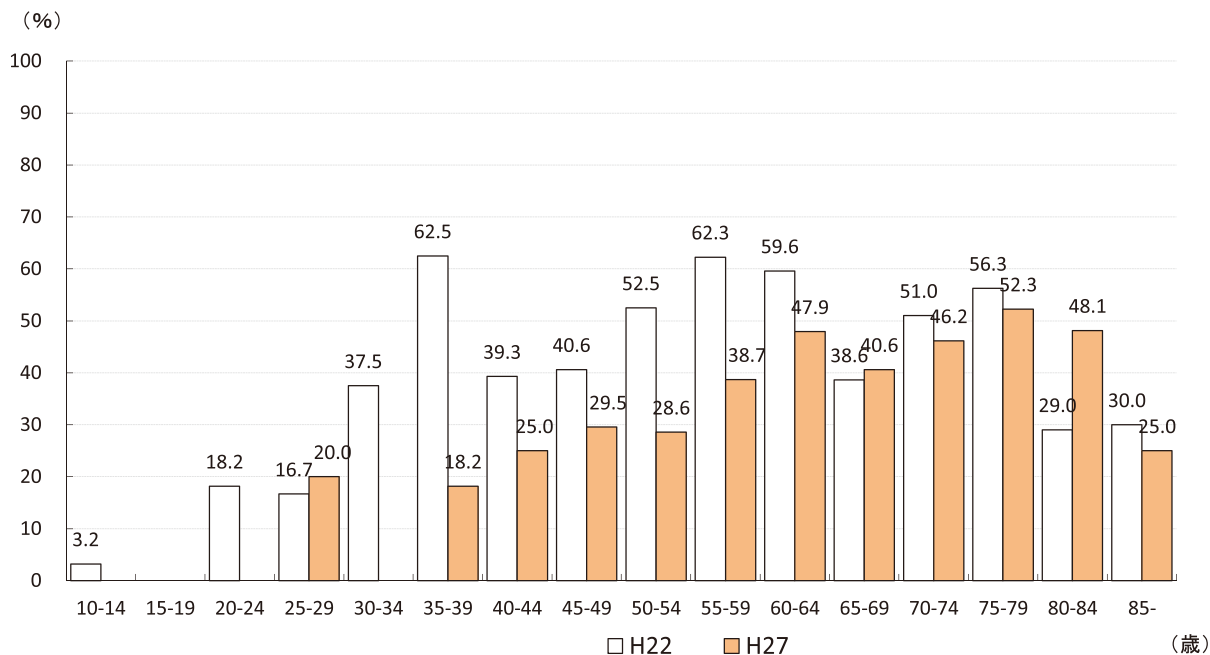
◆ 歯周病の状況

進行した歯周病を有する者(4mm以上の歯周ポケットを持つ者)の割合を平成22年と比較すると40～64歳まではどの年代も10%以上の減少が見られたが65歳以上では差は少なかった。年齢階級別は、40歳代27.3%、50歳代33.7%(※推定値)であった。

※40歳代：40～44歳と45～49歳の割合を単純平均した値

※50歳代：50～54歳と55～59歳の割合を単純平均した値

【図81】 4mm以上歯周ポケットを持つ者の割合(平成22年との比較)



えひめ健康づくり21

(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
 進行した歯周炎を有する者の割合
 目標値(平成35年度)：40歳代 22% 60歳代 45%
 愛媛県歯科保健推進計画の目標
 進行した歯周病に罹患している人の割合
 目標値(平成28年度)：40歳代 22%以下 50歳代 33%以下